第5回交通まちづくり懇談会　議事要旨

日　時：平成 17 年 3 月 25 日（金）
場　所：宇都宮市総合福祉センター　４階　視聴覚室
参加者：森本、奥備、森崎、石川(裕)、並木、石川(昌)、小林、藤平(元)、小野、柳田、
　　　松本、小針、梅林、稲葉、阿久井、山本、古谷、野澤

[次第]

① 開会の挨拶（事務局）
② 座長挨拶（座長）
③ 議事
　・ 交通まちづくりに対する提案書について
　・ 委員会における検討内容について
　・ 最終提案書のイメージ(たたき台)について
④ 閉会の挨拶（事務局）

懇談会の様子

＜交通まちづくりに対する提案書ついて＞…事務局より説明
特になし

＜委員会における検討内容について＞…事務局より説明
参加者：　ＪＲとＬＲＴの結節について、新幹線とＬＲＴの接続については検討されてい

ると思うが、もう一度検討していただきたい。検討によるＰＲ効果があり、まちの活性化にも繋がる。

公共交通ネットワークについて、現状では、大通りに公共交通が重複して運行されているが、CO_2 や NO_x 削減のためにも理想的な右側のネットワークの方がよい。ここの文章に「環境」という言葉を入れておくのがよいと思う。

座　長：　初めの結節点の話は議論してきた、「乗り換えのスムーズさ」に係る問題である。

2 点目に付いての指摘については、委員会での検討内容への追記は難しいので、委員会から提示していただいたものについて我々はさらに「環境」というキーワードを付けた方がよいということで、受けさせていただくこととする。

参加者：　宇都宮都市圏の都市交通マスタープランの都市構造イメージの中で、ウエストハート、センターハート、イーストハートと表現されているが、イメージが描けないので具体的な展望を含めて説明していただきたい。

事務局：　都市機能について、「中心拠点」、「地域核拠点」、「地域拠点」、「産業拠点」に分類し、この拠点が、ウエストーセンターーイーストというように連携する形になっていくというイメージをしていただきたい。

参加者：　栃木県規模として見ているということでよいか。

事務局：　ご指摘いただいたとおりである。

＜最終提案書のイメージ(たたき台)について＞…事務局より説明

参加者：　提案書の中の「まちづくりと連携」という表現では弱い。「まちづくりと共生」とした方がよい。

座　長：　硬い言葉では我々の提言らしくないということで、少し市民の言葉づかいのような形で整理しているが、これでよいか。　→　参加者了承

参加者：　「環境」に関しての視点が弱い。環境に関する言及をもう少しした方がよい。

参加者：　「交通まちづくりの実現に向けて」の部分について、「行政への期待」では弱い。「行政の役割」のような文言とした方がよい。

参加者：　タイトルは「行政へのお願い」程度とし、内容で厳しく書いておくのがよいと思う。

参加者：　中身を読まなくてもタイトルを見ただけではっきりと分かる形にしたほうがよいと思った。

座　長：　皆の意見を聞いて最終的に事務局の方でまとめていただくことにしたい。

参加者：　「車」のことについて触れなくてもよいのか。公共交通のみの記述とすると車を否定していると受け取られる場合もあるのではないか。

座　長：　初めのところで、「クルマは便利な交通手段であり、今後も必要な道路整備の充実を図っていくことが重要」と記述していることで対応しているつもりだが、不十分であれば再考の必要がある。

事務局：　最後の「私たちにできること」の部分に車の使い方を考えましょうという内容を追加する形はどうか。

参加者：　日経新聞栃木版に、市民の 7 割は公共交通が整備されても利用しないという記事があった。変わっていかなければならないのは住民側の意識だと思う。「環境に優しい乗り物を利用するようにしましょう」というような文言を入れてはどうかと思う。

参加者：　以下のように修正をお願いしたい。

- 「…道路整備の充実を図っていくことが重要ですが、一方で、交通渋滞の…」→「…道路整備の充実を図っていくことは言うまでもない。今日、交通渋滞の…」
- 「クルマだけでは対応できない課題も数多くあります。」→「在来のクルマだけでは対応できない課題が数多くあります。」
- 「これらのことから、これからの時代に…」→「そこで、これからの時代に…」
- 「相互交流を図ることが重要と考えます。」→「相互交流を図ることが重要です。」
- 「公共交通ネットワークを構築することが重要と考えます。」→「公共交通ネットワークを早急に構築すべきである。」
- 「誰でも暮らしやすいまちづくりを行うことも重要と考えます。」→「誰でも暮らしやすいまちづくりが実現できます。」
- 「…交流の場としても期待されます。」→「交流の場として充実すべきである。」
- 「役割を果たしていく必要があると考えます。」→「役割を果たしていく必要がある。」
- 「実現されることを望みます。」→「実現すべきである。」
- 「先導的な役割を果たすべきと考えます。」→「先導的な役割を果たすべきである。」
- 「公共交通を支えていくべきと考えます。」→「公共交通を強固にすべきと考えます。」

　また、宇都宮の人は、はっきりと「県都」であるということを言うべきであり、提案書の文章の中に表現していただきたい。

参加者：　提案書は誰に出すものなのか。

事務局：　「県央地域における新交通システム導入促進協議会」の会長、すなわち宇都宮市長に提出する。また、周辺市町の市長・町長にも同じように提出する。

参加者：　この提案書を、市民の啓蒙書にしたいと考えている。

参加者：　主婦の立場から言うと、普段はあまり硬い言葉で会話をしていないので、硬い

言葉で書かれていると読みたくなくなる。普段の言葉で柔らかい感じで書いておいた方が良いと思う。

参加者：　圧力を与えるような形で提案すると反感を買う可能性がある。提案書はこのままでよいと思う。我々の気持ちを正確に重要性を持ったものとして伝えることが大切である。

参加者：　駅東の交通が不便ということで関東バス会社がアンケートを実施している。今月中に結果がわかると思うので、その際は事務局に提出するように伝えておく。

参加者：　商工会長をしており、首長に要望書や要請書を出している。先ほどの意見にも合ったように、「考えている」というよりももう少し強めの表現が良いのではないかと思う。

座　長：　皆さんの意見を事務局と座長で調整する形でまとめたいと思うが、一任していただけないか。　→　参加者了承

座　長：　続いてキャッチフレーズについてどういうものがよいか意見をいただきたい。

参加者：　キャッチフレーズが環境に特化したものにするのか、あるいはまちづくりと公共交通システムのあり方を混ぜたものにするのかによって違ってくる。先にどういう方向性のキャッチフレーズにするかを議論させていただいた方が良いのではないか。

座　長：　ご指摘どおりだが、まず、私はこういうふうに思う、というのを言っていただきたいと思おう。

参加者：　まちづくりと公共交通システムのあり方の２つを表せる言葉で作った方が良いと思う。

参加者：　「心のバリアフリー」という言葉が欲しい。

参加者：　「ＬＲＴも車もバスも自転車も徒歩も全てが係わりあいをもって共生していく」ということがこれまでの議論で何度も出てきていると思う。一言で言うと先ほど意見の合った心のバリアフリーということになると思う。まちづくりと交通をうまく組み合わせた言葉ができればよい。

参加者：　「人と環境に優しいまちを目指して」という表現でどうかと思う。

参加者：　ここで終わりというのでなく必ず続くという意味で、「未来へのあゆみ」という表現を入れていただきたい。

参加者：　宇都宮と茂木のつながりを考えると、地域と地域の絆ということになる。これが人の心と心の絆となるために公共交通をもっと利用しましょうということで、「地域の絆」というのをキャッチフレーズに入れていただきたい。

参加者：　電気自動車や水素自動車の開発により、車による公害は全くなくなると考えているので、環境という言葉はいれなくても良いのではないかと思う。キャッチフレーズは誰がみても共感できるようにするためには、「あなたのための…」という表現にした方がよいと思う。

参加者：　前回の懇談会の時の意見の「いつでも、どこでも、誰にでも」ということでよいと思う。

座　長：　皆さんの意見からキーワードとなるのは、「人」、「心」、「共生」、「人と人のつながり」などで、人が中心になって住民みんなに投げかけられるソフトなキャッチフレーズにするのが良いのではないかと思う。ここで１つに決定するのは難しいので、事務局と座長で決めさせていただきたい。　→　参加者了承

＜これまでに言い忘れたこと、来年度以降議論していただきたいこと等について＞

参加者：　来年度はＪＲ、東武との結節点について具体的に議論できるようにしていただきたい。

参加者：　もう少し住民に浸透するようなことも考えてもらいたい。

参加者：昔は宇都宮中心街に来るのが楽しみだった。「ぜひ行ってみたいまち」を早く作りたいと思っている。

参加者：　来年度以降、イメージをもう少し具体的に形にして提案できれば良い。

参加者：　村おこし、まちおこし、地域活性化が叫ばれているが、「昔は良かった」という議論により原点を探り、未来に向けていく必要がある。これからもこのような議論を続けてもらいたい。

参加者：　茂木から清原工業団地まで４車線のバイパスを作っている。バイパスは１車線で十分なので、真ん中の２車線をつかってＬＲＴを引いて欲しい。宇都宮市街を通すのが難しければ、逆に茂木から引いていただいて清原工業団地あたりに車庫を作り、あんないいものがなぜ宇都宮のまちに入ってこないのかと羨ましがられるようなものを茂木から早くお願いしたい。

参加者：　オープンな場で議論や勉強ができたのが良かった。環境や高齢社会や経済問題はクリアしなければならないが、これは熟年の世代で可能であると思う。今後最も心配なのは子供たちの情報知識を得る環境についてである。コンピュータや携帯電話のような先端技術を中老の世代が全く断念していることについて、このままでいいのかと思う。子供の未来を考えると情報システムをこのまま放っておいてはいけないと思う。

参加者：　学生をこういった議論の場に巻き込んで欲しい。卒業後宇都宮を離れてしまう人が殆どなので、宇都宮に残ってもらうべくこういう場に引っ張ってもらうと広がりが出ると思う。

参加者：　女性をもっと議論の場に巻き込んで欲しい。主婦が学ぶと子供に還元することができる。公共交通の充実が大切なことが分かったので、今後は県央地域の公共交通の選択肢の絞り込みに踏み込んでいくことが必要だと思う。

参加者：　宇都宮中心市街地の話だけでなく、県央地域全体としての話ができたのが良かった。

　ＬＲＴについてあまり話が出なかったが、全体を考えると鹿沼から茂木まで走らせて周辺のまちが活性化していくという形が最も望ましいと思う。

参加者：　来年度以降続くのであれば、より具体化な活動や提案をしていってもらいたい。できれば参加したい。

　まちが全体としてどっちへ向かっているのかをはっきり提示されることが必要である。市や県が何を発信していくのかはっきりしていないために栃木県のイメージがあまり良くないのではないかと思う。観光立県というのであれば、もっと観光拠点を結ぶ公共交通が充実していっても良いと思う。生活者の立場としては、ＪＲや東武はもう少し駅の間隔を狭くして「ちょい乗り」ができるようなことも考えていってもらいたい。

　事業者、行政、市民がそれぞれどういうことができるのかについてはっきりと提言してそれぞれの意識を変えていくことが必要であると思う。

参加者：　社会教育の根本は子供・孫がその地域を離れないでいることであり、交通機関の整備や職場の創出が必要となる。これまで、住みたいまち、住んでよかったまちということで活動してきたので、ＬＲＴも高根沢町まで引いていただければありがたい。

参加者：　芳賀郡は交通に恵まれていない地域である。公共交通の整備と共に道路整備も進めるべきである。車社会の中では車の使いわけをすることも必要である。ホンダへのアンケートによると車の方が良いという結果が出たと聞いている。そういう中で、車と公共交通の使い分けができるような社会をつくっていくことも課題の一つであると思う。

参加者：　女性の意見がもっと入らないといろんな切り口の意見が出てこない。半分程度は女性とすべきである。

参加者：　芳賀町は軌道系の交通手段を持たない町で、生活圏も宇都宮市と真岡市の２つに分かれており、宇都宮市への交通アクセスの改善は非常に大きな問題であると考えている。

　芳賀町では町内の新交通システムとしてデマンド型のタクシーを走らせることが予算成立した。７月には特にお年寄りが対象となると思われるが、ジャンボタクシー２台と普通タクシー１台を使って、町内の要望に応じたルートで運行する予定である。

事務局：　本日を含め５回の懇談会でいただいた意見に基づき、今後検討を進めていきたい。新年度からは新交通導入に関して県も積極的に参画していただくことになっているので、県央地域の住民、企業、行政がひとつになって取り組んでいきたい。この懇談会については、名前は変わると思うが継続予定である。今後はそれぞれの地域住民の皆様への普及・啓蒙・啓発活動を進めていかなければならないと考えている。

参加者：　今回整理した提案はすぐに実現する話ではない。今の公共交通は非常に貧弱であり、現状に対してどうするのかという話も必要である。また、企業ベースでの公共交通には限界があるので、行政を含めて何か提案していければよいと思う。

事務局：　本日いただいた意見を基に、最終的な提案書を整理させていただきたいと思う。そして座長の森本先生とともに、促進協議会の会長である市長に提案する形を取り、皆様には後日改めて報告させていただきたいと思う。

　また、本日、これまでの議事要旨を整理して配布しているが、これをホームページで公開する予定である。訂正・要望があれば事務局までご連絡をお願いしたい。

以上